

各種演技の概要



「はしご演技」(10:46~)

門司の伝統的な消防文化である「はしご乗り」は、はしご一梯に乗子1名、とび持ち8名で行われ、火災現場で燃えさかる建物などを破壊する道具「とび口」だけで、はしごを支えます。



「腕用ポンプ隊の放水演技」(10:58~)

明治以来、ドイツ製ポンプを参考に、日本で製作された腕用ポンプで、「八幡西消防団・腕用ポンプ保存会」で復元と修理を行い、出初式では実際に放水を行います。



「消防ラッパ隊の吹奏」(10:58~)

消防ラッパ隊は、消防団員の士気の高揚、市民の防火意識の普及、伝統ある消防ラッパの継承を目的に設立されました。火災発生を知らせるため、「火災発生信号」を吹奏します。



「救助救出訓練」(11:10~)

「高速道路上で交通事故が発生し、車両に挟まれている負傷者がいる」との想定で救助救出訓練を行います。



「まとい演技」と「木遣り唄」(11:20~)

木遣り唄はとび職の間で労働歌として唄われ、火災の現場から引き上げる時に、その木遣り唄に合わせてまといを振っていたと言われていました。



フィナーレ(11:36~)

フィナーレは高さ7メートルの「大まとい」への放水と消防艇・消防団車両からの一斉放水を行います。